

No	ページ	修正箇所	修正内容	修正理由	対応	委員
1	14	Boxの人工林と自然林との違いは？ の中の文中  「●人工林の年齢構成は同齡、樹種構成は単純、樹幹がそろった状態であるのに対して、自然林は異齡、混交、樹幹は不ぞろいである。」	●人工林の年齢構成は同齡、樹種構成は単純、樹幹がそろった状態であるのに対して、自然林は異齡、混交、樹幹は不ぞろいである <u>ために、生物多様性が高い。</u>	人工林と自然林の違いの本質が説明されていない。 人工林の混交林化、複層林化をすすめるという基本施策の理由であるはず。	水源施策では、生物多様性の向上については副次的効果として捉えています。記載内容については検討していきます。	羽澄
2	15	BOX 小仏山地とその森林  ●山地から里知性の多種の動物が生息。シカの生息はまだ少なく、丹沢のような下層植生の衰退はまだみられていない。	●山地から里知性の多種の動物が生息。 <u>大綱前はシカの生息も少なかったが、しだいに増加しつつあり、下層植生の衰退のおそれが高まっている。</u>	現時点の現状報告であれば、正しく表記すべきでは。 BOX 箱根外輪山内にある記述に合わせてもよいかもしれない。	第1部は施策大綱前の情報を記載することとしています。	羽澄
3	87	第4部イントロ、下から4行目	「・・・施策大綱を策定した当時における危機的状況は <u>とりあえず</u> 脱したものと考えられます。」	脱したと断定的な表現ではないほうがよい。人口減少、人出不足、税収難、加えて災害頻発の状況を踏まえれば、現状の大綱施策の執行体制はいつでもブレーキがかかり、危機的状況はいつでも再発する可能性が高い。	報告書に反映させていただきます。	羽澄
4	90	4 新たに必要となる取組への加筆	意見書用の意見票に書いたが、ここから先に、気候変動対策、生物多様性保全対策としての森林の持続的管理で間違いないと考えるが、それを実行する体制づくりが危ういということは書き込んでおく必要がある。  学校教育、大学の専門教育分野での林業や狩猟の専門技術者育成は期待できないし、森林や水の生物相のモニタリングの調査技術者の育成もあやしいものがある。民間事業体の存続も厳しくなる中で、それらの専門性ある人材（フィールドワーカー）の育成を含めた新たな執行体制の構築を、県の役割として組み込む必要にせまられている。この技術者の育成は大綱後の重要課題。		意見書と連動して反映させていただきます。	羽澄
5	30~33	順応的管理の実施に関して	各事業で（対応）に対する（結果）が、令和3年度までに〇〇〇実施した等の記載がされていますが、対応に記載されている内容がこの実績ですべてPDCAサイクルが完了したという理解で良いのでしょうか。もし完了ということであれば実施した規模の後に、対応が図られた（PDCAサイクルが完了した）という記載があった方がよいと思います。実施規模も必要ですが、対応した内容が結果的にどうであったかを記載することが重要と考えます。まだ課題があるのであれば次の段階のPDCAサイクルに繋がり、最終的にはP83の継続が必要な取り組みに繋がっていくことになります。		結果については、第3部で記載していきます。	宮下

No	ページ	修正箇所	修正内容	修正理由	対応	委員
6	41	事業費及び事業量による評価（アウトプット）及びP48（イ）事業量の（アウトプット）について	P48の記載内容は、P41の進捗率またはP42～P47 記載の進捗率から言える要約の要約と思われるが、ここでは少なくともP41の各事業（11事業）について進捗率の解説が必要で、その結果が要約としてP48のような内容になるかかもしれません。15年間または今後20年間の取り組んだ事業内容のまとめとしては簡素化しすぎかと思われます。少なくとも15年間（最終は20年間）の各事業がどのように進捗しているかを理解する必要があります。仮に20年間の期間で目標に対する進捗率が100%であった場合、その事業は目標を達成したことになり、その結果、その事業は必要ないと思われる場合もあります。100%達成したとしても課題、問題はあると思われます。事業の進捗に対する読み取り、見方を解説するような事業ごとの棚卸が必要と思います。その結果が、P89に記載されるような継続が必要な取り組みに繋がっていくこととなります。100%達成しても継続的な事業は行わないと当初の目論見が無になってしまうことも考えられます。		事業量のアウトプットについて解説を加えました。	宮下
7	59	今後の課題	ここでは課題が述べられその必要性がドキュメントされています。現時点では事業がどの程度の規模になるか算定は困難かと思われますが、数値目標が最終的には必要になるかと思われますので、今後必要な事業は数値目標を策定する必要がある旨記載した方がよいと思われます。 また、生態系の健全化に関する効果は検証の途上にあることからされなるモニタリングを継続していく必要があります。20年で健全化の傾向は一部みられているが20年程度で結論付けられるものではなく長期的なモニタリングが必要であります。		長期目標の策定及びモニタリングについて反映させました。	宮下
8	86	全体総括	ここでは20年間の取り組みが包括的に記載され、第4部及び意見書に繋がる内容がすべてわかるように洗い出していただければと思います。より具体的な内容を示していただきたいと思います。		全体総括の記載について反映させました。	宮下
9	87	第4部	ここは第3部までの内容及び神奈川県を取り巻く環境の変化を重層的に見て意見書に繋がる見通し、課題、対応を取りまとめるのものであり、意見書と重なるものであると考えられます。このため、提示された意見書に近い項目建てとそれに伴う記載が望ましいかと思われます。		第4部の構成を改めました。	宮下
10	59	今後の課題	県の公的管理が終了した私有林の課題を追加してはどうでしょうか	県による公的管理が終了した私有林等については、現在と同じレベルで森林管理をしてゆかなければ、水源の森としての公的機能が時間経過とともに失われてゆきます。引き続き間伐やシカの食害防止などの管理を継続してゆくための仕組みを考え、対策を構築してゆく必要があると思います。	報告書に反映させていただきます。	上田

No	ページ	修正箇所	修正内容	修正理由	対応	委員
11	1	(1) 総合的な施策の推進 将来にわたり良質な水を安定的に確保するためには、これまでの取組では十分ではなく	将来にわたり良質な水を安定的に確保するためには、広域に広がる水源の保全のために、より総合的な取り組みを拡充し、推進していくことが必要でした。	これまでの取組が十分ではなく、役割分担、地域分担があった。この度の税金を徴収することで、水源の保全に特化して、これまで手が入れられなかったエリアに新たに人やお金を投じることができた、という認識のため。	施策大綱の表記を使用しています。	乙黒
12	8	県内各地域の水利用のグラフについて	配置逆転（地図を上、その下にグラフをおき、線で結ぶ （地図～その地域の数字、のほうが、情報が入ってきやすいのではないかと） 色を統一 （地域ごとの水源と、取水量、地域ごとの色で濃淡でしてはどうか）	現行は、地図とグラフのつながりがわかりにくいかなと感じました。また、県西部の字が、白抜きのため、見えないから、修正するならば、グラフの色も呼称されてはどうかと考えました。	県西の表記を修正しました。	乙黒
13	56	年間の土壌侵食深の空間分布図	施策前 → (斜め上) 開始後10年 → (斜め下) 施策なし (同2018年想定)	年間の土壌侵食深の空間分布の図とその下の比較を、並べて表示すると情報が、その上のグラフ2つのようにまとまるのではないかと考えたから。	報告書に反映させていただきます。	乙黒
14	82	水源環境保全・再生神奈川県民会議ア) 活動実績	情宣のための紙芝居、絵本を作成。教育委員会の協力のもと、県下の小学校〇〇〇校へ配布。	紙芝居を作ったり、配ったりしていただいたことも、十分な実績かと思えます。また、その配布のおかげで、小学生層には認知されているので、記載いただけるといいかと思えます。	報告書に反映させていただきます。	乙黒
15	90		最終評価報告書ならびに意見書の最後の章の中で、過日の懇談会で提起された「社会資本」(等)として森林の位置づけていくことを提言することはあっているのではないかと思います。1つの問題としてどのコンセプトを使うかということがあるかと思えます。思い当たる限りでは社会資本(たくさんの学者が議論してきています)、インフラストラクチャー(池上惇)、社会的共通資本(宇沢弘文)ですが、それぞれ議論がありまして慎重な検討が必要かと思えます。		意見書と連動して反映させていただきます。	太田
16	6	① 1行目 県内の水道水源は、約6割が ② 図 神奈川県内の上水道の水源別構成比 (平成31年4月1日現在)	① 1行目 県内の水道水源は、令和〇年現在、約6割が... ② 新しい統計に基づいた図にする。	① 数値を出しているため、何年現在か明確にすべきだと思います。 それにより地下水等の比率も変わってきます。 ② 平成31年4月1日現在の図では古いと思います。	報告書に反映させていただきます。	三好
17	25	実施流域・対照流域の図	図の名称(例えば「対照流域法によるモニタリング調査」)を記載した方がよいのではないのでしょうか。		報告書に反映させていただきます。	木村
18	21、41	41ページ及び42ページの表中の左側の事業名 21ページの図「水源環境保全・再生施策の構成」内の事業名	41ページ及び42ページの表中の左側の事業名が、21ページの図「水源環境保全・再生施策の構成」内の事業名と一致していないものがあります。一致可能ならば、一致させたほうがよいのではないのでしょうか。		2期から3期にかけて事業の見直しをしているため、一致しないものがあります。	木村

No	ページ	修正箇所	修正内容	修正理由	対応	委員
19	21	下記の図に示すとおり森林や河川、地下水の保全・再生などの施策で構成されており、一般財源等により実施する事業に加えて、「水源環境保全税」を財源とする特別対策事業で構成されています。・・・ (一般財源事業約135億円/年、特別対策事業約40億/年)	例えば、21ページの図で、一般財源がどのように関わっているか分かるようにする。	21ページの図では一般財源で使われている事業と特別財源で使われている事業の区別がはっきりと分からない。一般財源でも、11事業に使われているのか？使われていないとしたら、一般財源はどんな事業に具体的に使われているのか分かるようにできないか。	資料編に掲載します。	古舘
20	77	(3) 評価結果から見えてきたこと ……経済的価値の評価は年間272億円という結果になりました。……一般財源を…140億円も取り組まれております。	一般財源のほか、国税である森林環境譲与税も使われており、令和6年度から森林環境税として新たに国税年間1000円が徴収され、自治体へ譲与税として配分されることになりました。 よって経済的価値の評価は〇〇となります。	譲与税は含まれていない、と理解していません。 一般財源に含まれての経済効果であれば、解釈の間違いですので削除願います。 但し、3つに分けて示した方がよいと思います。	県における森林環境譲与税の使途は、市町村が実施する施策の支援等となっており、水源環境に影響するものではないため、記載しません。	西田
21		図表写真（と説明文）の画素が粗い		画素が粗い 文字が読めない		岡田
22	40	最終行	(注1 p.〇〇 10の指標を参照)とありますが、別ページではなく、この続きに、中間報告書の34ページ(10の指標が説明)があると、理解しやすいです。		今回の報告書では、中間評価報告書で使用した指標を使って評価を行う方法は取っていないため、資料編としています。	岡田
23	41	水源林確保の面積が計画で14558ha、実績が14455ha、進捗率が100.7% 水源林整備の面積が計画で38288ha、実績が34069ha、進捗率が112.4%	1. 第1期から第3期の計画総面積を母数にして進捗率が算出されていますが、最終報告書なので、第1期から第4期の計画総面積を母数にするべきではないでしょうか。 2. また、第1期から第4期(施策大綱20年間)の計画総面積の数値が、施策大綱の趣旨からみて、十分なもののなのか、不十分なもののなのか、の記載がほしいと思いました。十分であるなら大綱終了で終わっていい・不十分であるなら大綱終了後も継続すべきとの判断ができそうに思います。		令和3年度までの事業進捗を測る意図で作成しています。	岡田
24	79	BOD、全窒素、全リン のグラフ	縦軸に単位を記載する		報告書に反映させていただきます。	岡田
25	79	1. 上から7行目 2. 下図のタイトル 3. 78ページの説明文	1. 「指標9：取水堰における環境基準の達成度(BOD, N, P)」 なぜここに、この指標だけあるのかわからない。10の指標全てがあると良いと思った(意味が照らし合え、読んで理解しやすい)。 2. 指標10：相模川水系(相模ダム・・・)合計貯水量 指標10：の説明に使用するグラフだと思うが、「指標10：」の記載は不要ではないか 3. 78ページの説明文で、10の指標それぞれについて、最終的アウトカムの記載できないか(わかりやすいと思うので)		今回の報告書では、中間評価報告書で使用した指標を使って評価を行う方法は取っていないこと、指標が示す内容が1次・2次・最終アウトカムそれぞれにまたがるため、ご提案の方法での記載はできません。	岡田

No	ページ	修正箇所	修正内容	修正理由	対応	委員
26	80	章立て	6. 水源環境保全・再生を推進する仕組みの評価 (1) 順応的管理の考え方に基づく施策推進の評価と見直し ア) 施策の評価・検証に向けた調査の実施 イ) 施策実施状況を踏まえた順応的管理(新規事業の導入・見直し) ウ) 順応的管理の体制等に係る自己評価 エ) 順応的管理の取組に係る総評 (2) 県民の意思を基盤とした施策展開(県民会議)の評価	現ア)のタイトルは適当なものを思いつかず、ないほうがスッキリすると思います	報告書に反映させていただきます。	岡田
27	82		市町村への支援事業では、県民(モニター)の意見が順応的管理で反映されないという内容を示すべきと思います。	<input type="checkbox"/> 県民モニターの意見が反映されたのかどうか分からない <input type="checkbox"/> 県民会議と市町村の関係が双方向ではなく、県民会議から市町村へ一方という印象がある	市町村への支援についても、県民会議意見により評価シートの導入などを行っております。	岡田
28	82		「水源林整備の手引き」「生態系に配慮した河川・水路等の整備指針」の作成・更新	80ページに、「モニタリングなどを踏まえて水源林整備手法を見直し更新している」とあります。 「水源林整備の手引き」の更新履歴をその更新内容とともにリストで記載するとわかりやすいと思います。 同じく、「生態系に配慮した河川・水路等の整備指針」も更新されているようですので、こちらも更新履歴を記載することはできますか？	水源林の手引きについては、県HPでも公表していますので、そちらのURLを記載します。 文章については、修正します。	岡田
29	82	「生態系に配慮した河川・水路等の整備指針」の作成・更新	「生態系に配慮した河川・水路等の整備指針」の内容に含まれるのかわかりませんが、平成26年から評価に使用している「河川水路事業評価シート」(①水質・動植物調査、②整備手法、③水環境の維持、満点：100点(①20%、②60%、③20%))についてです。第3期2年目頃(5年くらい前)に、上記評価項目が事業者視点のものが気になり、会議(たぶん県民会議?)で以下の指摘をしたことがあります。 1. 整備手法の配点が大きすぎるのではないか(事業者視点のウエイトが過大になっている) 2. 県民(地域住民)の意見や関わりを評価項目に入れることはできないか  配点を変えると、過去のデータと整合性がとれなくなるという返事があり、市町村への支援事業なのでキャッチボールが難しいとの印象とともに、結局そのままになった経緯があります。 県民視点が入った事業評価シートにできなかったことは、大綱終了後にむけての検討項目になるように思います。		意見書と連動して反映させていただきます。	岡田

No	ページ	修正箇所	修正内容	修正理由	対応	委員
30	61	図中にある表	① 文字が小さすぎて読めないのを大きく ②3期5か年計画の目標、H29～R3年度実績、第1期実績、第2期実績 の順番を、第1期実績、第2期実績、第3期実績、第3期5か年計画の目標とする	H29～R3年度は第3期に相当 3期5か年計画の目標 は不要ではないか	図表については、第3部の冒頭に集約します。	岡田
31	61	(1) 生態系の健全性に関する効果	(1) のタイトルを変更する・・・例えば、「(1) 生態系に配慮した整備での効果」と具体的にするのはどうでしょうか	タイトルがあいまいで違和感をもった。 (1) では最終的に、自然浄化機能を期待して水質改善を目的にしている(健全な生態系→水質がよくなる) 一方、(2) では、水質がよくなれば生態系が健全になるとの文章展開。 読んでいて、ループにはまったような感覚になりました	どちらのメカニズムもあるため、このままとします。	岡田
32	61	上から6行目	例えば、「以下で、事業規模の大きい恩曾川(第1期に実施)を対象に事業効果の評価を示します。」	実施時期の記載が必要	報告書に反映させていただきます。	岡田
33	61	下図にある写真の吹き出しの説明	どのような変化をつけているのかとか 石は自然素材かなど、写真に合わせた具体的な文にするのがよいと思う	8行目の文と同じなので、別の説明をすべき。	水関係事業の評価については、全面的な修正提案もあることから、委員会で協議していく	岡田
34	62	下の図	図中に+0.3や+0.5 とあるが、どこから+なのか基準かわからない。説明が必要		報告書に反映させていただきます。	岡田
35	63	上のグラフ	上の説明文3行目で、『過去の測定結果から上流の測定値について、事業実施前後で同程度の値を示したデータを抽出し、』とありますが、グラフの赤色棒(上流の測定値)は実施前の幅が1.8～2.8 くらい、実施後の幅が1.3～2.7くらいと、幅が違うのはなぜでしょうか?	上記説明文では、意図する意味が理解できないのかもしれませんが	効果測定については、年間を通して行っていないため、バラつきが大きく出ています。	岡田
36	63	下の図		① 第2期前半は差分が事業実施前より大きく効果がみえる ② 第2期後半は、事業実施前より差分が小さくなっている理由はなにか ③ 時間とともに、上流側でもBOD値が減少している。この理由はなぜか ④ △の数字がどういう意味があるかを説明する文が必要と思います。「田畑からの水流入がある地点である」など、その場所の特殊事情の説明も必要かもしれません	水関係事業の評価については、全面的な修正提案もあることから、委員会で協議していく	岡田
37	64, 65	○ダム湖における事業効果 8. 生活排水処理施設の整備促進の後、写真の前 と 9. 相模川水系上流対策の推進の後、写真の前	説明文が必要と思います		図表については、第3部の冒頭に集約します。	岡田

No	ページ	修正箇所	修正内容	修正理由	対応	委員
38	65	下図表の項目	1. H29～R3年度実績は第3期実績とすべきではないでしょうか 2. 第3期目標はいらぬいかも 3. 第1期はないのでしたか？		図表については、第3部の冒頭に集約します。	岡田
39	66		3行目：県内から相模湖に流入する → 県内域において相模湖に流入する 4行目：相模湖上流域については → 県外域については		報告書に反映させていただきます。	岡田
40	66	6行目 排水中のリン濃度 8行目 桂川清流センターの排水中のリン濃度	リン濃度は、全リン濃度（TP）なのかリン酸態リン濃度（P04-P）なのか どちらでしょうか？		T-Pとなります。	岡田
41	66	上のグラフ	第1縦軸のタイトルと第2縦軸のタイトルが必要です		報告書に反映させていただきます。	岡田
42	67	3行目	「環境省の類型指定見直しの検討等」の後に、文献名が必要と思います		水関係事業の評価については、全面的な修正提案もあることから、委員会で協議していく	岡田
43	67	下図	図の「窒素の移動・拡散・流出のメカニズム」の説明文が必要と思います		水関係事業の評価については、全面的な修正提案もあることから、委員会で協議していく	岡田
44	68	下図の写真	撮影年月日が必要です		水関係事業の評価については、全面的な修正提案もあることから、委員会で協議していく	岡田
45	68	下から4行目	「まとめ：相模湖を始めとしたダム湖では、近年窒素化合物の濃度が減少傾向をしめしており」の後に、減少傾向のデータが欲しいです。（もしくは文献名）		データについては記載してあります。	岡田
46	69		<input type="checkbox"/> 64ページと同じ写真や図は不要と思います 必要ならば、64ページを参照とする。 <input type="checkbox"/> どんな事業かについての説明文は必要と思います <input type="checkbox"/> 事業実施場所は、ダム湖と区別できるはずなので、実施場所の図を分けて作図するか、文で説明するか工夫が必要です		図表については、第3部の冒頭に集約します。	岡田
47	70	上図と下図	上図の内容は下図に内包されるので、上図は不要と思います		図表については、第3部の冒頭に集約します。	岡田
48	71	「7. 地下水保全対策の推進」と画像の間	事業の内容説明が必要と思います		水関係事業の評価については、全面的な修正提案もあることから、委員会で協議していく	岡田
49	71	下図の中の表	H29～R3年度実績→第3期実績 項目順を、第1期実績・第2期実績・第3期実績 としてはどうか		図表については、第3部の冒頭に集約します。	岡田
50	72	上から6行目	地下水の水位は維持されております → 地下水の水位は、事業開始以降15年間維持しています		報告書に反映させます。	岡田

No	ページ	修正箇所	修正内容	修正理由	対応	委員
51	72	下から2行目、下図の説明文	<p>「結果、地下水の水質が改善されてきています。」の一文だけでなく、もっと具体的な説明（図の説明）が必要です。</p> <p>「図に示すように、県継続監視調査（環境課）で実施しているメッシュ調査では、事業前にはテトラクロロエチレン・トリクロロエチレン・硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の基準超過が数地点で確認されていましたが、第3期の調査では基準超過は硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素のみとなりました。」</p> <p>「さらに、本施策で実施してるモニタリング調査地点でも、当初3地域（秦野市、座間市、中井町）でテトラクロロエチレン・トリクロロエチレン・硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の基準超過が見られましたが、汚染対策を進めてきた結果、基準超過のあるのは秦野市（テトラクロロエチレンで基準超過）のみとなりました。」など、が例として考えられます。</p>	<p>①メッシュ調査のこの図に、本施策でおこなっている結果（調査地点）を重ねるのがベストです。難しいと以前聞いた気もしますが・・・</p> <p>② 大綱終了後は、本事業で実施した調査地点を、県継続監視のモニタリング体制（メッシュ調査）に吸収させることが必要になると、考えられます。①で述べたようなマージさせた図での結果表示は、大綱終了後を見据えて必要になりそうに思います。</p>	<p>報告書に反映させていただきます。</p> <p>なお、メッシュ調査地点と地下水モニタリング地点は異なるため、大綱終了後に吸収させることはできません。</p>	岡田
52	73	説明文	<p>県民参加型調査の結果が、本施策の結果にリンクしていることを、もっとアピールする文にできないでしょうか。</p> <p>「河川モニタリングでは把握できなかった、細かな情報を拾い上げることができた。」</p> <p>例えば「上流の〇〇でも、水質の良い指標種である△△が見られなくなり、汚濁リスクが高いことがわかった」など、記載できないでしょうか。</p> <p>発見した「生きものリスト」だけは、県民参加型の意義が伝わらないと感じました</p>		<p>県民参加型調査については、現時点では精度や頻度の問題もあり調査の補完的調査としています。</p>	岡田
53	75	上から17行目	<p>「水質の悪化に弱い水質指標種（カジカ）」</p> <p>70ページに「良い水質の指標種であるカジカ」とあります。</p> <p>良い水質の指標種が、イコール水質の悪化に弱い水質指標種 なのか、ふと考えてしまいました。言い換えずに、「良い水質の指標種」を使用するほうが無難と感じます。</p>	70ページに「良い水質の指標種であるカジカ」のところで、文献名が必要に思います	<p>水関係事業の評価については、全面的な修正提案もあることから、委員会で協議していく</p>	岡田
54	75	上から20行目～21行目	<p>「本調査により」 → いない もしくは「本事業により」</p> <p>「であることが明らかとなった」 → 「である可能性が考えられました。」</p> <p>最後の行 「必要がある」 → 「必要があります」</p>	(←67ページの記載と合わせて)	<p>水関係事業の評価については、全面的な修正提案もあることから、委員会で協議していく</p>	岡田